

# 図書館だより

令和 4年 1月14日号

## 図書館こぼれ話

2022年は寅年。ということで、図書館にあるトラの本を集めて展示しています。トラで真っ先に浮かぶのは『山月記』ですが、絵本や画集でも発見しました。図書館でトラ鑑賞、いかがでしょう。



2022年が始まりました。早半月。みなさんにとってこの1年もよい年となりますように。図書館だよりでは今年もたくさんの本を紹介し、読書の楽しさを知るきっかけを作っていきたいと思っています。「読みたい」と思える本に1冊でも出会っていただけたら嬉しいです。図書館にも気軽に足を運んでください。来週には、第166回芥川賞、直木賞の発表が待っています。候補作の中で既に書籍化されているものは早速図書館で所蔵して、展示をしています。どの作品が賞に選ばれるのか予想しながら読んでみてください。

## ●2022年の運気を上げてくれそうな本

748-ヤ 『富士山』

山下 茂樹 || 著 青葙社

一富士二鷹三茄子と、初夢で見ると縁起がよいとされるものの先頭にもなっている富士山。初夢で見られなかった人もこの写真集で富士山から運気を分けてもらいましょう。四季折々の美しい風景の中にたたく富士山は、時に神々しく、時に幻想的です。写真からも伝わってくる富士山のすごいパワーを感じてみてください。

759-コ 『だるま』

COCHAE || 著 青幻社

赤くて丸い縁起物の代表であり、合格祈願のお守りでもあるだるま。寺や神社で見かけるだけでなく、おもちゃや貯金箱、絵本など色々なものになっていることから人々の身近で愛され、願いを託されてきたことがわかります。そんなだるまが全国各地から集結した1冊。よりすぐりのだるまたちの姿が新年の運気を上げてくれます。

## ●気になる新着本

596.2-オ 『ビストロ・パ・マルのレシピ帖』

小川 奈々 || 著 東京創元社  
昨年放映されたドラマ『シェフは名探偵』の公式レシピブック。ドラマを観ながら、近藤史恵さんの原作を読みながら「パ・マルの料理を食べてみたい！」と思った人は多いのではないのでしょうか。その夢をこの本で叶えましょう。この機に原作を読み返すとさらに料理もおいしくなるはず。

913.6-ニ 『目を見て話せない』

似鳥 鶏 || 著 角川書店  
コミュニケーションをとるのが苦手な僕。大学生活の始まりも自己紹介でしくじり、みんなの輪に入り損ねてしまう。しかし、教室に置き忘れられた1本の傘の持ち主を推理で探し当てたことから、周りの人との繋がりができ始める。思いがけない才能が僕の生活を賑やかに変えていく。

## ●今年も注目していきたい女性作家さん二人

913.6-テ 『ほたるいしマジカルランド』

寺地 はるな || 著 ポプラ社

遊園地で働く人には夢に溢れ輝いているイメージがある。だけど、この物語に登場するマジカルランドの従業員たちは自信がなかったり、人付き合いが苦手だったり、どこか不安げ。遊園地の賑やかさの中で葛藤を抱えながら働く人々と、彼らをそっと見守る名物社長の優しさあふれる短編集。主人公たちの表情が明るく変わっていく様子に読者も励まされます。

B913.6-マ 『コンビニ兄弟』

町田 そのこ || 著 新潮社

黄色い歓声上がる変わったコンビニ。それがテンダネス 門司港こがね村店だ。魔性のフェロモン漂う店長 志波の接客に老若男女が虜になってしまうのだ。店長に加え、個性派の常連客も揃い、店内はいつも賑やか。でも騒がしいだけではなく、ここは悩みを抱えた人の背中を押してくれる心温まるコンビニでもあるのだ。

## ●司書の『今月はこの本を読みました』

新刊を楽しみにしている作家さんのひとりが近藤史恵さん。【気になる新着本】でも触れたビストロ・パ・マルシリーズ(『タルト・タタンの夢』、『ヴァン・ショーをあなたに』、『マカロンはマカロン』)はフレンチの店を舞台にしたミステリー仕立ての短編集で食欲がそそられました。新刊『おはようおかえり』(913.6-コ PHP 出版社)は和菓子が食べたくなる物語でした。主人公は和菓子屋「凍滝」の娘 小梅。何となく、の気持ちで凍滝の従業員として働く小梅が突如妹のつぐみに乗り移ったひいお祖母ちゃんとの出会いによって、自分なりのやりかたで和菓子作りに向き合っていきます。ぜひ、きんつばを用意して読んでください。【今井】